



- ・14回目の開催となる今回は、サブテーマを「**G空間が織りなす豊かな社会へ**」と題し、革新的なG空間技術を新産業・新サービスの創出に繋げるとともに、産業ニーズをG空間技術の開発にフィードバックする「持続的発展スパイラル」の構築を目指し、産学官の多様な主体が参画。
- ・今回は、**会場を東京ビッグサイトに移し、国際宇宙産業展等と同時開催**することにより、**新規出展が20者、来場者が前年度比15倍の約26,300名**となる等、例年以上に盛会となった。

◆ 開催概要

※同時開催：国際宇宙産業展、防災産業展、グリーンインフラ産業展

〔会場開催〕 令和7(2025)年1月29日(水)～31日(金)

東京ビッグサイト（10時～17時）

南4ホール：展示会場・セミナー会場、南2ホール：メインステージ

〔オンライン開催〕 令和7年1月22日（水）～2月7日（金）

〔入場者数〕 **26,338名（同時開催展含む）**

1日目：7,299名／2日目：9,391名／3日目：9,648名

◆ 主なイベント内容

- ・内閣官房「イチBizアワード」表彰／国土交通省「地理空間情報データチャレンジ」表彰
- ・講演：「建築・都市のDX」の現在地と将来像
- ・講演：NHK「ブラタモリ」プロデューサー 吉田 光志 氏
「旅が10倍楽しくなる！“地図ブラ”の魅力～「ブラタモリ」番組づくりの現場から」

◆ 主催：G空間EXPO運営協議会

〈G空間EXPO2026開催方針〉

〔会場開催〕 令和8(2026)年1月28日(水)～30日(金)

東京ビッグサイト（東ホール）（10時～17時）

※同時開催：国際宇宙産業展、防災産業展、グリーンインフラ産業展



①関係省庁・多様な分野との連携強化

- ・シンボルプロジェクトの担当省庁として、これまでも展示を行っていた内閣府宇宙事務局（準天頂衛星みちびき）、国土交通省（PLATEAU、不動産ID）、国土地理院（国家座標）のほか、**前年度から新たに農林水産省（スマート農業）、経済産業省（空間ID）のブースを出展**

※このほか国土交通省（歩行空間の移動支援サービス）や国土技術政策総合研究所、多様な分野の民間企業が新規出展

- ・EXPO開催日が新たな準天頂衛星の打上予定日の直前となることを踏まえ、**宇宙事務局による関連セミナーを実施**



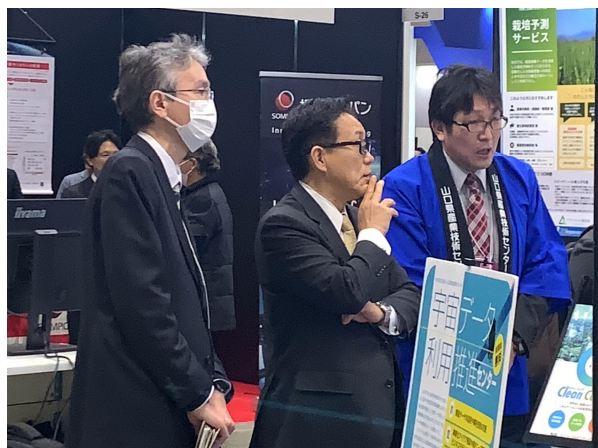
農水省・経産省の
ブースを視察される
新藤義孝議員

②先進的なG空間技術の発掘・展開

- ・令和6年3月に実施したG空間産学官意見交換会への招聘をきっかけとして、**宇宙線（ミュオン）を用いた新たな測位技術**であるμPS（ミューピーエス）の第一人者である東京大学・田中宏幸教授が企画し、被災した建物内を探索する**救助ロボットの実演**や国際的な取り組みの講演等を実施



新藤義孝議員ご挨拶の様子
(イチBizアワード表彰式)



江島潔議員ご視察の様子



G空間EXPO講演の様子

地理空間情報を活用したビジネスアイデアコンテスト『イチBizアワード』概要

- ・『イチBizアワード』は、地理空間情報を活用したビジネスアイデアの発掘や人材育成・コミュニティの形成を行うプロジェクト
- ・第3回目となる今年度は、昨年度比1.7倍の応募があり、G空間EXPOにて受賞アイデアを表彰。さらに、宇宙事務局との連携により、「みちびき賞」を新たに創設。

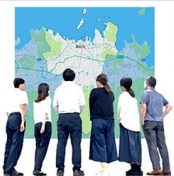
募集結果

アイデア部門：101件、ビジネス部門：61件、地域部門：10件
合計172件の応募（昨年度は計100件）。

有識者審査員

高松市都市整備局都市計画課デジタル社会基盤整備室 伊賀大介 室長	一般財団法人スタートアップエコシステム協会 代表理事 藤本あゆみ 氏	武蔵大学社会学部教授/武蔵学園データサイエンス研究所副所長/東京大学空間情報科学研究センター客員教授 庄司昌彦 氏	一般社団法人メタ観光推進機構 代表理事 牧野友衛 氏
			

スペシャルアドバイザー

DBJキャピタル株式会社 投資部シニアインベストメントマネージャー 石元良武 氏	駒澤大学文学部地理学科・准教授（東京大学地理空間情報科学研究センター・特任准教授） 瀬戸寿一 准教授	高松市都市整備局都市計画課デジタル社会基盤整備室
		
(ビジネス部門)	(アイデア部門)	(地域部門)





地理空間情報を活用したビジネスアイデアコンテスト『イチBizアワード』結果 (1/2)

イチBizアワード最優秀賞

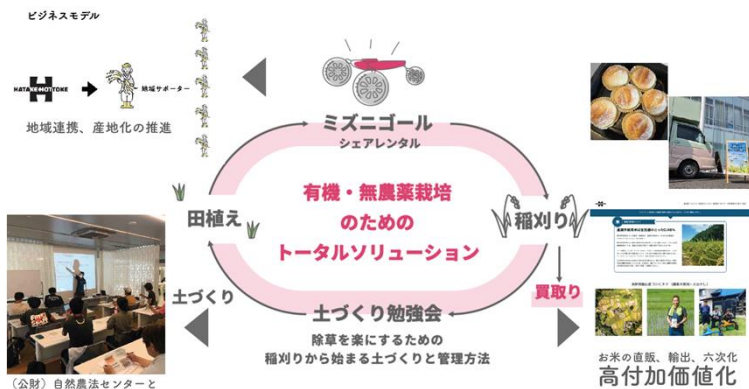
水田雑草対策ロボット ミズニゴール

株式会社ハタケホトケ

**GPS（全地球測位システム）を搭載し、
田んぼを走らせるだけで
除草作業の自動化を実現。**



GPS搭載ロボットが水田を自動走行し、泥をかき混ぜ水を濁らせることで雑草の光合成を遮断し、除草の手間を削減。



※ロボットを複数の農家でシェアレンタルする仕組みを検討するなど、地域連携による産地化を支援。

優秀賞（ビジネス部門）

助け合い海難救助サービス「よびもり」

株式会社よびもり



海難事故発生時に、首掛け式デバイスのボタンを5秒長押しすることで事故の発生位置を近くの船舶に発信し、事故者の探索時間を短縮。

AI × スマホ × 自動車を使ったごみ分布調査システム「タカノメ」

株式会社ピリカ



専用の車載カメラが路上のゴミを自動で検知し、その位置をデジタルマップに可視化することにより、路上清掃を効率化。



地理空間情報を活用したビジネスアイデアコンテスト『イチBizアワード』結果 (2/2)

優秀賞（アイデア部門）

「あるいてGO！」～未就学児童向け交通ルール学習ゲーム～

共愛学園前橋国際大学 渡辺研究室 根井 茉那



実際の都市のPLATEAUデータをマインクラフト（ゲーム）に取り込むことで、自分が暮らす街をフィールドに、子どもがゲーム感覚で楽しみながら交通ルールを学ぶことが可能に。

ITの力で救急医療に変革を！「Quick」

武田 淳宏

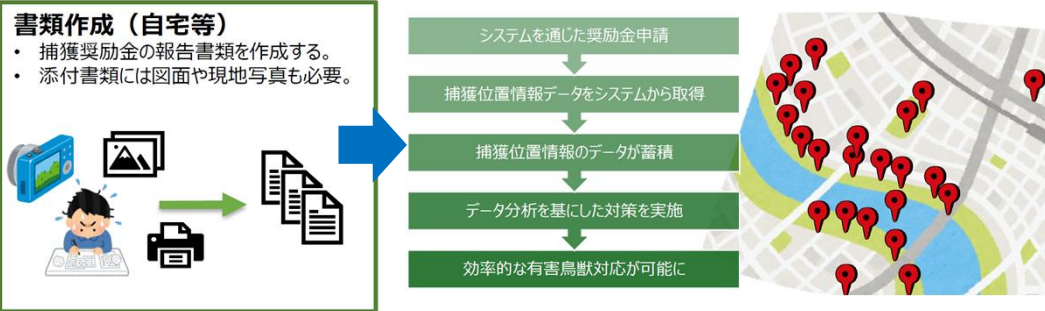


119番通報した患者の重症度をAIで判定し、軽傷の場合には、位置情報を基に症例や空き状況から医療機関へのタクシー配車を自動で行うことで、軽傷者の救急車利用の減少に貢献。

優秀賞（地域部門）

有害鳥獣情報提供システム

令和6年度まちのデータ研究室チーム「鳥獣害撲滅」 香川大学 西村 侑馬



鳥獣駆除に係る行政手続きを電子化し、申請された駆除地点を高松市スマートマップ（地理空間データ基盤）に自動表示することで、市民への迅速な注意喚起や効率的な鳥獣対応を実現。

みちびき賞

みちびき×ブロックチェーンを用いた配達員保険システム

株式会社シーエーシー



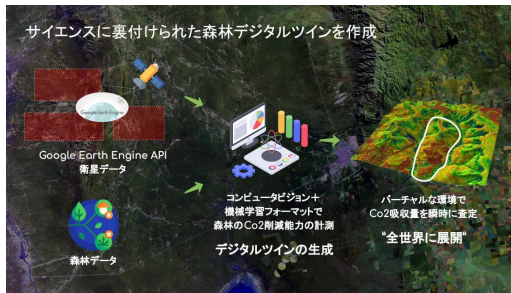
みちびきの高精度な位置情報を活用し、配達員の走行情報（逆走の有無など）を評価し、運転の仕方に応じた保険料の自動調整を実現。

過去の『イチBizアワード』受賞企業の活躍状況

2023年度脱炭素部門賞 Carbontribe Labs



- ・衛星データとAIを組み合わせることで、**地理的制約なく安価にカーボンプレジットを測定・予測**できるアイデア。
- ・受賞後のマッチングをきっかけに環境省と協業。**GOSAT（温室効果ガス観測技術衛星）の衛星データを活用**した、より精度の高いクレジット測定方法の開発に取り組む。
- ・昨年11月に**アゼルバイジャンにて開催されたCOP29**において、環境省が主催するイベントにパネリストとして登壇し、「GOSATデータを活用したカーボンプレジット生成」について講演。米国やインドネシア等で事業展開を開始。



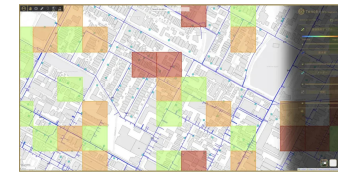
(カーボンプレジット生成イメージ)



2022年度最優秀賞 天地人コンパス Tenchiijin



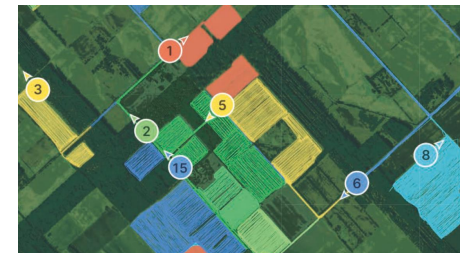
- ・地球観測衛星データを活用した解析、可視化、データ提供を総合的に行うWebGISサービスを提供。
- ・提供サービスの一つとして、**衛星データを活用した水道管の漏水リスクを予測する水道DXサービス**を展開。国内で**20以上の自治体**に導入されている。
- ・「日本のスタートアップによるASEAN企業との協業を通じた海外展開促進事業」（経産省）における支援対象企業に採択、ASEAN諸国でのビジネス展開を目指す。
- ・昨年4月にマレーシアで開催された**アジア最大の水道展示会**や昨年10月にシンガポールで開催された**アジア最大級のテックカンファレンス**において、水道DXサービスをブース展示。アジア・ヨーロッパ各国からの問合せが増えている。



(漏水リスクの可視化イメージ)

2023年度最優秀賞 レポサク インウィン

- ・農業車両に専用のGPS端末を設置することで、車両の軌跡を可視化し、作業の進捗把握や作業計画検討を容易にするアイデア。
- ・受賞をきっかけに内閣府宇宙開発戦略推進事務局と連携。昨年11月、準天頂衛星の活用を行うスタートアップとして宇宙ビジネスイベントである「S-NETセミナー2024 in 東京」（主催：同事務局、経済産業省）で基調講演を行った。受賞後、**CLASに対応する改良**を行い、**約100社で導入**されている。



(車両軌跡の可視化イメージ)